

令和5年度に向けての
狭山市商工業振興施策等に対する要望書

狭山商工会議所

■無料Wi-Fi環境整備について

新型コロナウイルス感染の減少傾向にある中、外国人入国規制緩和やGOTOトラベルが全国的におこなわれるようになることで、当市へも旅行者が見込まれることが予想されるので、全公共施設並びに稲荷山公園・智光山公園等で利用できる無料Wi-Fi等の環境整備を検討していただきたい。

■特定技能外国人受入に対する助成制度の新設について

深刻な人手不足を乗り切るため、中小企業者にとって、特定技能外国人の受け入れは今後ますます需要が高まると思われる。外国人労働者の受入には、就労環境は基より、生活環境の整備が不可欠であり、特に住居や生活必需品等の費用は、中小企業者にとって大きな負担となる。ついては、中小企業者への育成指導の面から、特定技能外国人の受入に関する費用補助の新設をお願いしたい。

■工業団地の事業所移転に伴う跡地利用の規制等について

近年、工業団地内の企業移転による跡地については、物流倉庫（拠点）が建設されることが多く、建屋の大きさに対しての雇用者数は、製造業と比してかなり低くいため規模の割には雇用の創出に繋がっていないと思われる。ついては、工業団地内の跡地にもものづくり系事業所特区（仮称）としての線引きを行い、工業団地内での物流倉庫の建設を抑制していただきたい。

■地域中小企業者へのSDGs取組支援

狭山商工会議所では、経営強化法に基づく経営革新計画の作成支援を実施するにあたり、新事業への取組については、SDGsが掲げる17項目に紐付けを行い、中小企業者への取組を助長している。狭山市においても、第4次総合計画後期において、SDGsへの取り組みが本格化するところと認識しているが、中小企業者がSDGsの大切さを認識し取組を始めるには、現在の景況化では難しく、SDGsそのものが、まだまだ敷居が高いと考えるのが本音と言える。ついては、SDGsの取り組みを支援するため、奨励金等、何等かのインセティブを検討されたい。

■地域中小企業者のDX（デジタルトランスフォーメーション）導入推進

DXによる組織の改革や、生産・業務の効率化は、中小企業の深刻化する人材不足や生産性向上に欠かすことができない。昨年9月のデジタル庁創設により、今後ますますDX導入の動きは加速していくものと思われる。しかしながら、中小企業者の多くは、DX導入に対する資金や人材も不足しているのが現状である。ついては、デジタルデバイドの縮小を図り、デジタル社会に遅れをとらぬためにも、地域中小企業者に対するDX導入の推進並びに設備やDX人材に係る補助金制度の新設を検討されたい。

■ポストコロナを見据えた地域経済対策

昨年10月下旬以降、新型コロナウイルス感染者数は激減し、経済活動も徐々にではあるが活発化の兆しが見えてきた。しかしながら、原油や半導体不足、食料品等の高騰など、景気低迷とは裏腹に物価は上昇しつつあることから、スタグフレーションが懸念される。ついては、ポストコロナを見据え地域の特性を活かした大胆な経済対策を検討されたい。

■開業間もない事業者並びに新規開業者への支援について

新型コロナウイルス感染拡大期間中、市内で開業して間もない法人・個人事業者並びに今後新規開業を検討している法人・個人事業者においては、原油・原材料・商品仕入価格等の高騰の影響により、財務状況をはじめ、体力的に厳しい状況にある。ついては、近隣市において制度化させている、新規開業事業者及び開業後間もない市内事業者向けの育成支援事業として、支援金等の新設又は優遇措置を図られたい。

■渋滞緩和に向けた道路等の整備促進について

2021年7月より狭山環状有料道路（狭山大橋）が無料となったことで、地域経済の活性化が期待されたところである。一方で、無料開放により国道16号線から圏央道狭山日高ICまでの利便性の向上により、狭山大橋の利用者が格段に増加し、柏原地区を中心に交通渋滞が発生している現状となっている。活発な企業活動を促進するためには、ヒトやモノの流れを円滑化することが重要であることから、県道鯨井狭山線柏原小入口交差点において交通量調査を実施して

いただくとともに、必要に応じそれぞれ道路を拡幅の上、右折レーンを設置する等の検討をいただきたい。併せて矢印式信号機の設置についても、埼玉県公安委員会等と協議していただきたい。

■圏央道「狭山パーキングエリアの拡充」並びに「狭山日高インターチェンジ周辺」の整備について

近年、工業団地内に物流企業が進出していることから、狭山パーキングエリア内は、待機物流車両等で大変混みあっている。この状況を改善するため、NEXCO東日本と協議していただき、パーキングエリアの拡張並びに混雑緩和のためにスマートインターチェンジを設置していただくと共に、その導線に「道の駅」の様な、地場製品の販売所を建設するなどし、交流人口の増加を併せて図られたい。なお、この他、狭山日高インターチェンジに於いても、時間帯によっては大変混みあっている状況であることから、出入口周辺の整備をしていただくよう併せて検討されたい。

■狭山市のブランディング戦略について

狭山市には、智光山公園、稲荷山公園の都市公園の他、昨年オープンした入間川河川敷公園「にこにこテラス」など、自然に寄り添った風光明媚な公園が多い。他にも、2つの工業団地を有している事や、今年NHK大河ドラマで知られるようになった、源義高ゆかりの地であることから、観光客や企業誘致に対するプロモーションとして利用できる資源は多いと考える。ついては、観光による更なる賑わい創出と企業誘致に有効な地の利や利便性を重視した、新たなブランディング戦略を検討されたい。特に、源義高による観光プロモーションについては、今を好機と捉え、観光協会と連携しながら進めていただきたい。